

スマホに有機ELパネル搭載拡大の動き

◆2017年にはアップルがiPhoneに有機ELパネル採用か

2016年9月、アップルが最新機種iPhone7を販売開始した。ソニーのFeliCaを搭載、電子マネー対応などで話題になったが、17年秋ごろ販売の次期機種からは有機ELパネルを搭載するのではということが予想されている。15年秋にアップルがパネルメーカーに「最新機種には有機ELを採用する」と宣言したからだ。

16年には採用にならなかったもので、17年にはいよいよかというわけだ。有機ELを採用する目的については、折り曲げや本体の湾曲面を表示に使用するなどデザイン性を重視したからではないかとみられている。一方で、現状ではコストが液晶に比べると高いことや、画素数も液晶には及んでいないなどの面があるが、これはおそらく早めに宣言することで、メーカーが開発に本気をだし競争すれば液晶パネル並みになるのを期待しているとみられる。早めに方針を出すことで、ショック療法的な効果を狙ったものだろう。

◆中国では有機ELパネル生産拡大の投資が盛んに、問われる日本企業の対応

アップルの狙いは的中したのではないか。サムスン電子が圧倒的にリードしている状況は、アップルとしても望まない状況だろう。鴻海はシャープの有機ELパネルの技術が欲しかったからこそ数千億円の投資をしたと思われる。有機EL拡大は液晶メインの鴻海にとっては死活問題になるからだ。総額2,000億円を投じ、試作ラインは堺に作るが、生産ラインは中国に作り、19年にも生産開始をしたい意向だ。また中国企業も投資を加速している。中国のパネル最大の京東方科技集団（BOE）など6社は総額2兆円を投資する計画ということだ。中国のスマホメーカーも有機ELパネル採用の動きがあり、18年には逆転するとの見方が出ている。日本企業は液晶用材料のカラーフィルターや配向膜などで強く、材料メーカーへの影響は大きい。一方、パナソニックとソニーの有機EL事業の統合によるJOLEDは、17年4月には量産技術を確立し18年からは量産を計画している。また製造装置の多くは日本製であり、有機EL材料も出光や住友化学が大きなシェアを持っている。装置や材料メーカーには大きなチャンスになりそうだ。

【松田英樹】